

輕便鐵道郵便取扱手續

これは「くろがねのみち」が臺灣總督府報（官報）から鉄道関係の記事を抜粋したものです。内容は記述そのまま旧かな使いで転記してあります。条文改定の際には、旧条文を青文字で取消線を引き、新条文を赤字で表示しています。なお転記の際には注意してあります。この資料の内容の正確性は担保しません。内容に付いての誤りについてお気づきの方はご連絡いただければさいわいです。

平成二十三年一月二十三日 初版

臺灣總督府報 第四百四十七號
訓令第四號

郵便及電信局

輕便鐵道郵便取扱手續左ノ通相定ム

明治三十二年一月二十一日

臺灣總督 男爵兒玉源太郎

第一條 輕便鐵道線路ニ依リ通送スヘキ郵便物（小包郵便物トモ以下同シ）ハ輕便鐵道臺車ニ搭載シ通送人ヲシテ之ヲ押送セシムルモノトス

第二條 輕便鐵道線路ニ依リ各局相互ノ間ニ通送スヘキ郵便物ハ各到着局毎ニ大行囊ニ納メ締切トナスヘシ

第三條 郵便物搭載重量、通送速度及通送人繼替時間（郵便物ノ受渡アルトキハ其時間トモ）ノ制限ハ左ノ如シ

- 一 搭載重量（通送人一人押四十貫匁以内
二人押八十貫匁以内

- 二 通送速度一哩ニ付 十五分
但土地ノ狀況ニ依リ規程ノ速度ヲ履行シ能ハサル場所ニハ相當ノ猶豫時間ヲ附與スルコトアルヘシ

- 三 通送人繼替時間 十分

第四條 郵便物ヲ搭載シタル臺車ニハ必郵便旗ヲ掲揚スヘシ

第五條 郵便物搭載臺車押送ノトキ其初頭ニ在ル押送ノ通送人ヲシテ喇叭ヲ携帯セシメ線路屈曲ノ場所竝ニ前方ヨリ他ノ臺車來ルヲ遠見シタルトキハ之ヲ呼吹セシムヘシ

第六條 臺車二輛以上使用スルトキハ甲乙臺車間寡クトモ二間ノ距離ヲ取り停車ノ際甲乙衝突セサル様注意セシムヘシ又甲乙五間以上離隔セシメサルヲ要ス

第七條 臺車通送人二人以上ヲ付スル場合ニハ其通送便毎ニ通送取締人一人ヲ定メ他ノ通送人ノ取締ニ任セシムヘシ

第八條 郵便物搭載用臺車ニハ時々油ヲ注入シ又ハ掃除ヲ爲シ通送上澁滯澁滯ノ虞ナラカシムヘシ

第九條 通送人途中交替ノトキハ相互通送人ニ於テ臺車數ト郵便行囊數トヲ點檢セシメ通送記ノ備考欄内ニ行囊現在數ヲ記入シ相互選取取締人（通送人一人ノトキハ其通送人）ヲシテ認印ヲナサシムヘシ

第十條 線路沿道受渡曲ノ郵便物受渡場所ハ當該局ニ持込保管ノ規定アル場所ヲ除クノ外ハ最近輕便鐵道停車場トス若局停車場間ノ距離遠隔ニシテ別ニ受渡場所ノ設定ヲ要スルトキハ其位置ヲ撰定シ豫メ認可ヲ受クヘシ

第十一條 郵便物遞送ヲ終リ其遞送人歸途ニ就クトキハ郵便物ヲ搭載シタル臺車雨覆及空臺車ハ必其遞送人ヲシテ押戻ラシムヘシ
第十二條 此手續ニ規程セサル事項ハ總テ一般ノ取扱規則ニ依ル
附 則
本令ハ明治三十二年二月一日ヨリ施行ス

臺灣總督府報 第四百七十號
訓令第三十四號

郵便及電信局

明治三十二年一月訓令第四號輕便鐵道郵便取扱手續中第二條左ノ通
改メ明治三十二年三月一日ヨリ施行ス

明治三十二年二月二十六日

臺灣總督 男爵兒玉源太郎

第一條 輕便鐵道線路ニ依リ遞送スヘキ郵便物（小包郵便物トモ以下同シ）ハ輕便鐵道臺車ニ搭載シ遞送人ヲシテ之ヲ押送セシムルモノトス

第二條 輕便鐵道線路ニ依リ各局相互ノ間ニ遞送スヘキ郵便物小各到著局毎ニ大行囊ニ納メ締切トナスヘシ

輕便鐵道線路ニ依リ遞送スヘキ郵便物ハ左ニ記載スル區別ニ從ヒ大行囊ニ納メ締切トナスヘシ

一 次ノ夜中保管局（夜中保管局ナキトキハ線路極端ノ局以下同シ）ニ至ル途中ニ之アル郵便及電信局ニ遞送スヘキモノハ各到著局毎ニ締切ルヘシ

二 次ノ夜中保管局及其以下ノ郵便及電信局ニ遞送スヘキモノハ總テ次ノ夜中保管局ニ宛締切ルヘシ

三 夜中保管局宛ノ締切行囊ハ其保管中ニ於テ之ヲ開キ其翌日遞送ノ時刻迄ニ第一號、第二號ノ手續ヲ爲スヘシ

第三條 郵便物搭載重量、遞送速度及遞送人繼替時間（郵便物ノ受渡アルトキハ其時間トモ）ノ制限ハ左ノ如シ

一 搭載重量 一 遞送人一人押四十貫匁以内
二 遞送速度 一 同 二人押八十貫匁以内

二 遞送速度一哩ニ付 十五分
但土地ノ狀況ニ依リ規程ノ速度ヲ履行シ能ハサル場所ニハ相當ノ猶豫時間ヲ附與スルコトアルヘシ

三 遞送人繼替時間 十分

第四條 郵便物ヲ搭載シタル臺車ニハ必郵便旗ヲ掲揚スヘシ

第五條 郵便物搭載臺車押送ノトキ其初頭ニ在ル押送ノ遞送人ヲシテ喇叭ヲ携帯セシメ線路屈曲ノ場所竝ニ前方ヨリ他ノ臺車來ルヲ遠見シタルトキハ之ヲ呼吹セシムヘシ

第六條 臺車二輛以上使用スルトキハ甲乙臺車間寡クトモ二間ノ距離ヲ取り停車ノ際甲乙衝突セサル様注意セシムヘシ又甲乙五間以上離隔セシメサルヲ要ス

第七條 臺車遞送人二人以上ヲ付スル場合ニハ其遞送便毎ニ遞送取締人一人ヲ定メ他ノ遞送人ノ取締ニ任セシムヘシ

- 第八條 郵便物搭載用臺車ニハ時々油ヲ注入シ又ハ掃除ヲ爲シ通送
 上澁滯澁滯ノ虞ナラカシムヘシ
- 第九條 通送人途中交替ノトキハ相互通送人ニ於テ臺車數ト郵便行
 囊數トヲ點檢セシメ通送記ノ備考欄内ニ行囊現在數ヲ記入シ相互
 選取締人（通送人一人ノトキハ其通送人）ヲシテ認印ヲナサシ
 ムヘシ
- 第十條 線路沿道受渡曲ノ郵便物受渡場所ハ當該局ニ持込保管ノ規
 定アル場所ヲ除クノ外ハ最近輕便鐵道停車場トス若局停車場間ノ
 距離遠隔ニシテ別ニ受渡場所ノ設定ヲ要スルトキハ其位置ヲ撰定
 シ豫メ認可ヲ受クヘシ
- 第十一條 郵便物通送ヲ終リ其通送人歸途ニ就クトキハ郵便物ヲ搭
 載シタル臺車雨覆及空臺車ハ必其通送人ヲシテ押戻ラシムヘシ
- 第十二條 此手續ニ規程セサル事項ハ總テ一般ノ取扱規則ニ依ル
- 附 則
- 本令ハ明治三十二年二月一日ヨリ施行ス

臺灣總督府報 第五百五十一號
訓令第九十六號

郵便及電信局

明治三十二年一月訓令第四號輕便鐵道郵便取扱手續中左ノ通改正ス
明治三十二年七月二日 臺灣總督 男爵兒玉源太郎

第一條 輕便鐵道郵便取扱手續

第一條 輕便鐵道線路ニ依リ遞送スヘキ郵便物（小包郵便物トモ以下同シ）ハ輕便鐵道臺車ニ搭載シ遞送人ヲシテ之ヲ押送セシムルモノトス

第二條 輕便鐵道線路ニ依リ遞送スヘキ郵便物ハ左ニ記載スル區別

一 次ノ夜中保管局（夜中保管局ナキトキハ線路極端ノ局以下同シ）ニ至ル途中ニ之アル郵便及電信局ニ遞送スヘキモノハ各到著局毎ニ締切ルヘシ

二 次ノ夜中保管局及其以下ノ郵便及電信局ニ遞送スヘキモノハ總テ次ノ夜中保管局ニ宛締切ルヘシ

第三條 郵便物搭載重量、遞送速度及遞送人繼替時間（郵便物ノ受

渡アルトキハ其時間トモ）ノ制限ハ左ノ如シ

一 搭載重量 一 遞送人一人押四十貫匁以内
二 遞送速度 一 同 二人押八十貫匁以内

但土地ノ狀況ニ依リ規程ノ速度ヲ履行シ能ハサル場所ニハ相當ノ猶豫時間ヲ附與スルコトアルヘシ

三 遞送人繼替時間 十分

第四條 郵便物ヲ搭載シタル臺車ニハ必郵便旗ヲ掲揚スヘシ

第五條 郵便物搭載臺車押送ノトキ其初頭ニ在ル押送ノ遞送人ヲシテ喇叭ヲ攜帶セシメ線路屈曲ノ場所竝ニ前方ヨリ他ノ臺車來ルヲ遠見シタルトキハ之ヲ呼吹セシムヘシ

第六條 臺車二輛以上使用スルトキハ甲乙臺車間寡クトモ二間ノ距

離ヲ取り停車ノ際甲乙衝突セサル様注意セシムヘシ又甲乙五間以上離隔セシメサルヲ要ス

第七條 臺車遞送人二人以上ヲ付スル場合ニハ其遞送便毎ニ遞送取

締人一人ヲ定メ他ノ遞送人ノ取締ニ任セシムヘシ

第八條 郵便物搭載用臺車ニハ時々油ヲ注入シ又ハ掃除ヲ爲シ若ビ

アリング内ノ海綿固結シ油ノ浸染セサルニ至リタルトキハ速ニ之ヲ取替ヘ遞送上澁滯澁滯ノ虞ナラカシムヘシ

輕便鐵道				
通送人使用役原符				
番號	人夫數		第	
臺車數	大	小	人	號
	本	本		
取扱	差立	日到	臺	者印
考	附	印	備	
	到著	局所	名	

第九條 通送人途中交替ノトキハ相互通送人ニ於テ臺車數ト郵便行囊數トヲ點檢セシメ通送記ノ備考欄内ニ行囊現在數ヲ記入シ相互選取締人(通送人一人ノトキハ其通送人)ヲシテ認印ヲナサシムヘシ

第十條 線路沿道受渡曲ノ郵便物受渡場所ハ當該局ニ持込保管ノ規定アル場所ヲ除クノ外ハ最近輕便鐵道停車場トス若局停車場間ノ距離遠隔ニシテ別ニ受渡場所ノ設定ヲ要スルトキハ其位置ヲ撰定シ豫メ認可ヲ受クヘシ

第十一條 郵便物通送ヲ終リ其通送人歸途ニ就クトキハ郵便物ヲ搭載シタル臺車雨覆及空臺車ハ必其通送人ヲシテ押戻ラシムヘシ郵便物ヲ搭載スヘキ臺車ハ每便必之ヲ檢査シ破損ノ箇所ナキヲ認メタル上搭載スヘシ

第十二條 此手續ニ規程セサル事項ハ總テ一般ノ取扱規則ニ依ル郵便物ノ積量制限以内ナルトキハ押送ノ通送人時々同乗スルモ妨ケナシ此場合ニ於テハ成ヘク臺車ノ前頭ニ同乗セシムヘシ但シ急勾配ノ下阪ニ在テハ縱合積量制限ニ達セサルトキ雖同乗セシムヘカラス

第十三條 郵便物ハ臺車ノ中心ヨリ前後左右トモ重量平均ヲ得ルヲ度トシ一方ニ偏セサル様搭載スヘシ若郵便物ノ積量制限以内ナルニ依リ押送ノ通送人同乗スルトキハ同乗者ノ體量ヲ見積リ其積體量ト郵便物ノ重量トヲ合セ中心ノ平均ヲ失セシメサルヲ要ス

第十四條 臺車押送ニ土人ヲ使役スルトキハ一臺毎ニ輕便鐵道通送人使役證(別記様式)ヲ調製シ當該通送人ニ交付スヘシ但便宜數臺ニ付使役證一葉ヲ交付スルコトヲ得

第十五條 郵便物通送ヲ終リ其通送人歸途ニ就クトキハ郵便臺車用雨覆竝締繩ハ其空臺車ニ搭載シ必其通送人ヲシテ之ヲ押戻ラシムヘシ

第十六條 郵便物通送中他ノ臺車ニ遭遇シ止ヲ得ス郵便車ヲシテ避ケシムヘキ場合ハ勿論空車ノトキト雖臺車ヲ転覆セシムヘカラス

第十七條 郵便及電信局又ハ出張所繼替所等ニ於テ臺車保管中ハ破損紛失セサル様中尉スヘキハ勿論雨覆ニ瀑洒セシムヘカラス

第十八條 此手續ニ規定セサル事項ハ總テ一般ノ取扱規則ニ依ルヘシ

明治三十年十二月訓令第百八十合郵便通送人使役規則第五條ハ輕便鐵道通送ニ適用セス
(別記様式)

道		鐵		便		輕	
證	役	使	人	送	通		
名局到	數具雨	數繩締		數人夫	番號		
		小	大	人	第		
		本				臺車	號
考備	印日局到	印日局差	印日局差	立		臺	
	著所著	著所著	著所著	立取		臺	
		差立取	差立取	取			
		取	取				
		印	印				
		者	者				
		印	印				

記入心得

- 一 土人通送人差出局所ニ於テハ左ノ各號ニ依リ通送人使役原符及使役證ノ記入方取扱スヘシ
- 一 番號ノ欄ニハ其付初メテ発スルモノヲ一號トシ以下一箇月間順ヲ遂ヒ其月ノ数字ヲ冠シ(例セハ一月ノ一號ハ一ノ一號トシ二月ノ十號ハ二ノ一〇號トスルノ類)記入スヘキモノトス
- 二 人夫數ノ欄ニハ臺車押送ノ人夫數ヲ記入スヘキモノトス
- 三 臺車數ノ欄ニハ發送臺車二臺以上ニ對シ使役證一葉ヲ發スル場合ニ於テ其臺車數ヲ記入スヘシ若一臺車ニ付一葉ヲ發スルトキハ之ヲ記入スルニ及ハス
- 四 締繩數ノ欄ニハ郵便行囊ヲ臺車ニ搭載スルニ付必要ナル締繩ノ本數ヲ其太キモノハ大、細キモノハ小ノ部ニ記入スヘシ
- 五 雨具數ノ欄ニハ行囊ヲ覆フヘキ雨具枚數ヲ記入スヘキモノトス
- 六 差立日附印(使役證ハ差立局所日附印)ノ欄ニハ土人搬送人ヲ差立タル局所當便ノ日附印ヲ押捺スヘキモノトス
- 七 取扱者印(使役證ハ差立取扱者印)ノ欄ニハ其差立ヲ取扱ヒタル者ノ印ヲ押捺スヘキモノトス
- 八 到著局所名ノ欄ニハ通送崎ノ局所名ヲ記入スヘキモノトス
- 九 備考ノ欄ニハ土人通送人使役上ニ關シ記載ヲ要スル事項ヲ記入スヘキモノトス
- 一 到著局所ニ於テ土人通送人使役證ヲ差出シタルトキハ左ノ各號ニ依リ記入方等ヲ取扱フヘシ
- 一 到著局所日附印ノ欄ニハ到著當便ノ日附印ヲ押捺スヘキモノトス
- 二 到著取扱者印ノ欄ニハ其到著ヲ取扱ヒタル者ノ印ヲ押捺スヘキモノトス
- 三 備考ノ欄ニハ通送中ノ事故ニ關シ差立局所ニ告知ヲ要スヘキモノトス

四 キ事項ヲ記入スヘキモノトス
前各號ノ取扱ヲ了ヘタルトキハ此使役證ハ之ヲ携帶シタル
通送人ニ返付スヘシ

臺灣總督府報 第六百六十三號
訓令第三百四十九號

郵便及電信局

明治三十二年一月訓令第四號輕便鐵道郵便取扱手續中左ノ通改正ス
明治三十二年十二月二十二日 臺灣總督 男爵兒玉源太郎

第一條 輕便鐵道線路ニ依リ通送スヘキ郵便物（小包郵便物トモ以
下同シ）ハ輕便鐵道臺車ニ搭載シ通送人ヲシテ之ヲ押送セシムル
モノトス

第二條 輕便鐵道線路ニ依リ通送スヘキ郵便物ハ左ニ記載スル區別
ニ從ヒ大行囊ニ納メ締切トナスヘシ

一 次ノ夜中保管局（夜中保管局ナキトキハ線路極端ノ局以下同
シ）ニ至ル途中ニ之アル郵便及電信局ニ通送スヘキモノハ各
到著局毎ニ締切ルヘシ

二 次ノ夜中保管局及其以下ノ郵便及電信局ニ通送スヘキモノハ
總テ次ノ夜中保管局ニ宛締切ルヘシ

三 夜中保管局宛ノ締切行囊ハ其保管中ニ於テ之ヲ開キ其翌日通
送ノ時刻迄ニ第一號、第二號ノ手續ヲ爲スヘシ

第三條 郵便物搭載重量、通送速度及通送人繼替時間（郵便物ノ受
渡アルトキハ其時間トモ）ノ制限ハ左ノ如シ

十 搭載重量 一人押四十貫匁以内
二人押八十貫匁以内

一 搭載量	通送人一人押	阪路	重量三十貫匁 容積高サ三尺
		平坦路	重量三十五貫匁 容積高サ三尺
	通送人二人押	阪路	重量六十貫匁 容積高サ四尺
		平坦路	重量七十貫匁 容積高サ四尺

二 通送速度一哩ニ付 十五分
但土地ノ狀況ニ依リ規程ノ速度ヲ履行シ能ハサル場所ニハ相當
ノ猶豫時間ヲ附與スルコトアルヘシ

三 通送人繼替時間 十分

第四條 郵便物ヲ搭載シタル臺車ニハ必郵便旗ヲ掲揚スヘシ

第五條 郵便物搭載臺車押送ノトキ其初頭ニ在ル押送ノ通送人ヲシ

- テ喇叭ヲ携帯セシメ線路屈曲ノ場所竝ニ前方ヨリ他ノ臺車來ルヲ遠見シタルトキハ之ヲ呼吹セシムヘシ
- 第六條 臺車二輛以上使用スルトキハ甲乙臺車間寡クトモ二間ノ距離ヲ取り停車ノ際甲乙衝突セサル様注意セシムヘシ又甲乙五間以上離隔セシメサルヲ要ス
- 第七條 臺車通送人二人以上ヲ付スル場合ニハ其通送便毎ニ通送取締人一人ヲ定メ他ノ通送人ノ取締ニ任セシムヘシ
- 第八條 郵便物搭載用臺車ニハ時々油ヲ注入シ又ハ掃除ヲ爲シ若ビアリング内ノ海綿固結シ油ノ浸染セサルニ至リタルトキハ速ニ之ヲ取替ヘ通送上滯滯滯ノ虞ナラカシムヘシ
- 第九條 通送人途中交替ノトキハ相互通送人ニ於テ臺車數ト郵便行囊數トヲ點檢セシメ通送記ノ備考欄内ニ行囊現在數ヲ記入シ相互選取取締人(通送人一人ノトキハ其通送人)ヲシテ認印ヲナサシムヘシ
- 第十條 線路沿道受渡曲ノ郵便物受渡場所ハ當該局ニ持込保管ノ規定アル場所ヲ除クノ外ハ最近輕便鐵道停車場トス若局停車場間ノ距離遠隔ニシテ別ニ受渡場所ノ設定ヲ要スルトキハ其位置ヲ撰定シ豫メ認可ヲ受クヘシ
- 第十一條 郵便物ヲ搭載スヘキ臺車ハ每便必之ヲ檢査シ破損ノ箇所ナキヲ認メタル上搭載スヘシ
- 第十二條 郵便物ノ積量制限以内ナルトキハ押送ノ通送人時々同乗スルモ妨ケナシ此場合ニ於テハ成ヘク臺車ノ前頭ニ同乗セシムヘシ但シ急勾配ノ下阪ニ在テハ縱合積量制限ニ達セサルトキ雖同乗セシムヘカラス
- 第十三條 郵便物ハ臺車ノ中心ヨリ前後左右トモ重量平均ヲ得ルヲ度トシ一方ニ偏セサル様搭載スヘシ若郵便物ノ積量制限以内ナルニ依リ押送ノ通送人同乗スルトキハ同乗者ノ體量ヲ見積リ其見積體量ト郵便物ノ重量トヲ合セ中心ノ平均ヲ失セシメサルヲ要ス
- 第十四條 臺車押送ニ土人ヲ使役スルトキハ一臺毎ニ輕便鐵道通送人使役證(別記様式)ヲ調製シ當該通送人ニ交付スヘシ但便宜數臺ニ付使役證一葉ヲ交付スルコトヲ得
- 第十五條 郵便物通送ヲ終リ其通送人歸途ニ就クトキハ郵便臺車用雨覆竝縮繩ハ其空臺車ニ搭載シ必其通送人ヲシテ之ヲ押戻ラシムヘシ
- 第十六條 郵便物通送中他ノ臺車ニ遭遇シ止ヲ得ス郵便車ヲシテ避ケシムヘキ場合ハ勿論空車ノトキト雖臺車ヲ転覆セシムヘカラス
- 第十七條 郵便及電信局又ハ出張所繼替所等ニ於テ臺車保管中ハ破損紛失セサル様中尉スヘキハ勿論雨覆ニ瀑洒セシムヘカラス
- 第十七條ノ二 輕便鐵道線路中阪路ト平坦路トノ區別ハ別ニ關係局所所ニ達示ス**
- 第十八條 此手續ニ規定セサル事項ハ總テ一般ノ取扱規則ニ依ルヘシ
- 本令ハ明治三十三年一月一日ヨリ施行ス

臺灣總督府報 第八百九十一號
訓令第八號

郵便及電信局

明治三十二年一月訓令第四號輕便鐵道郵便取扱手續中左ノ通改正ス
本令ハ明治三十四年二月一日ヨリ施行ス

明治三十四年一月二十二日

臺灣總督 男爵兒玉源太郎

第一條 輕便鐵道郵便取扱手續

輕便鐵道線路ニ依リ遞送スヘキ郵便物（小包郵便物トモ以下同シ）ハ輕便鐵道臺車ニ搭載シ遞送人ヲシテ之ヲ押送セシムルモノトス

第二條

輕便鐵道線路ニ依リ遞送スヘキ郵便物ハ左ニ記載スル區別

一 次ノ夜中保管局（夜中保管局ナキトキハ線路極端ノ局以下兩
トキ）ニ至ル途中ニ之アル郵便及電信局ニ遞送スヘキモノハ各
到著局毎ニ締切ルヘシ

二 次ノ夜中保管局及其以下ノ郵便及電信局ニ遞送スヘキモノハ
總テ次ノ夜中保管局ニ宛締切ルヘシ

三 夜中保管局宛ノ締切行囊ハ其保管中ニ於テ之ヲ開キ其翌日遞
送ノ時刻迄ニ第一號、第二號ノ手續ヲ爲スヘシ

四 輕便鐵道線路ニ依リ遞送スヘキ郵便物ハ左ニ記載スル區別ニ從ヒ
大行囊及添行囊ニ納ムヘシ

一 次ノ夜中保管局（夜中保管局ナキトキハ線路極端局以下同シ）
ニ至ル途中ニ沿道締切指定局（締切指定局ハ別ニ定ム）アル
トキハ其指定局ニ遞送スヘキモノノミ之ヲ締切ト爲シ其他ノ
局ニ遞送スルヘキモノハ添行囊ニ納ムヘシ

二 沿道締切指定局ヨリ第一次夜中保管局ニ至ル途中ニ之在ル局
ニ遞送スヘキモノハ各到著局毎ニ締切ト爲スヘシ

三 次ノ夜中保管局及其以下ノ局ニ遞送スヘキモノハ總テ次ノ夜
中保管局ニ宛締切ト爲スヘシ

四 夜中保管局宛ノ締切行囊ハ其保管中ニ於テ之ヲ開キ翌日遞送
ノ時刻迄ニ前各號ノ手續ヲ爲スヘシ

第三條 郵便物搭載重量、遞送速度及遞送人繼替時間（郵便物ノ受
渡アルトキハ其時間トモ）ノ制限ハ左ノ如シ

- 一 搭載量一
- 阪路一 重量三十貫匁
容積高サ三尺
- 通送人一人押一
- 平坦路一 重量三十五貫匁
容積高サ三尺
重量六十貫匁

阪路一 容積高サ四尺
通送人二人押一 重量七十貫匁
平坦路一 容積高サ四尺

二 通送速度一哩ニ付 十五分

但土地ノ狀況ニ依リ規程ノ速度ヲ履行シ能ハサル場所ニハ相當ノ猶豫時間ヲ附與スルコトアルヘシ

三 通送人繼替時間 十分

第四條 郵便物ヲ搭載シタル臺車ニハ必郵便旗ヲ掲揚スヘシ

第五條 郵便物搭載臺車押送ノトキ其初頭ニ在ル押送ノ通送人ヲシテ喇叭ヲ携帯セシメ線路屈曲ノ場所竝ニ前方ヨリ他ノ臺車來ルヲ遠見シタルトキハ之ヲ呼吹セシムヘシ

第六條 臺車二輛以上使用スルトキハ甲乙臺車間寡クトモ二間ノ距離ヲ取り停車ノ際甲乙衝突セサル様注意セシムヘシ又甲乙五間以上離隔セシメサルヲ要ス

第七條 臺車通送人二人以上ヲ付スル場合ニハ其通送便毎ニ通送取締人一人ヲ定メ他ノ通送人ノ取締ニ任セシムヘシ

第八條 郵便物搭載用臺車ニハ時々油ヲ注入シ又ハ掃除ヲ爲シ若ビアリング内ノ海綿固結シ油ノ浸染セサルニ至リタルトキハ速ニ之ヲ取替ヘ通送上澁滯澁滯ノ虞ナラカシムヘシ

第九條 通送人途中交替ノトキハ相互通送人ニ於テ臺車數ト郵便行囊數トヲ點檢セシメ通送記ノ備考欄内ニ行囊現在數ヲ記入シ相互選取取締人一通送人一人ノトキハ其通送人一ヲシテ認印ヲナサシムヘシ

第十條 線路沿道受渡曲ノ郵便物受渡場所ハ當該局ニ持込保管ノ規定アル場所ヲ除クノ外ハ最近輕便鐵道停車場トス若局停車場間ノ距離遠隔ニシテ別ニ受渡場所ノ設定ヲ要スルトキハ其位置ヲ撰定シ豫メ認可ヲ受クヘシ

第十一條 郵便物ヲ搭載スヘキ臺車ハ每便必之ヲ檢査シ破損ノ箇所ナキヲ認メタル上搭載スヘシ

第十二條 郵便物ノ積量制限以内ナルトキハ押送ノ通送人時々同乗スルモ妨ケナシ此場合ニ於テハ成ヘク臺車ノ前頭ニ同乗セシムヘシ但シ急勾配ノ下阪ニ在テハ縱合積量制限ニ達セサルトキ雖同乗セシムヘカラス

第十三條 郵便物ハ臺車ノ中心ヨリ前後左右トモ重量平均ヲ得ルヲ度トシ一方ニ偏セサル様搭載スヘシ若郵便物ノ積量制限以内ナルニ依リ押送ノ通送人同乗スルトキハ同乗者ノ體量ヲ見積リ其見積體量ト郵便物ノ重量トヲ合セ中心ノ平均ヲ失セシメサルヲ要ス

第十四條 臺車押送ニ土人ヲ使役スルトキハ一臺毎ニ輕便鐵道通送人使役證一別記様式一ヲ調製シ當該通送人ニ交付スヘシ但便宜數臺ニ付使役證一葉ヲ交付スルコトヲ得

第十五條 郵便物通送ヲ終リ其通送人歸途ニ就クトキハ郵便臺車用雨覆竝締繩ハ其空臺車ニ搭載シ必其通送人ヲシテ之ヲ押戻ラシムヘシ

第十六條 郵便物通送中他ノ臺車ニ遭遇シ止ヲ得ス郵便車ヲシテ避

ケシムヘキ場合ハ勿論空車ノトキト雖臺車ヲ転覆セシムヘカラス

第十七條 郵便及電信局又ハ出張所繼替所等ニ於テ臺車保管中ハ破

損紛失セサル様中尉スヘキハ勿論雨覆ニ瀑洒セシムヘカラス

第十七條ノ二 輕便鐵道線路中阪路ト平坦路トノ區別ハ別ニ關係局所所ニ達示ス

第十八條 此手續ニ規定セサル事項ハ總テ一般ノ取扱規則ニ依ルヘシ

臺灣總督府報 第千五十號
訓令第三百四十五號

郵便及電信局

明治三十二年一月訓令第四號輕便鐵道郵便取扱手續中左ノ通改正ス
本令ハ明治三十四年十一月十一日ヨリ施行ス

明治三十四年十一月五日

臺灣總督 男爵兒玉源太郎

輕便鐵道郵便取扱手續

第一條 輕便鐵道線路ニ依リ遞送スヘキ郵便物（小包郵便物トモ以下同シ）ハ輕便鐵道臺車ニ搭載シ遞送人ヲシテ之ヲ押送セシムルモノトス

第二條 輕便鐵道線路ニ依リ遞送スヘキ郵便物ハ左ニ記載スル區別

- 一 從ヒ大行囊及添行囊ニ納ムヘシ
ニ至ル途中ニ沿道締切指定局（締切指定局ハ別ニ定ム）アルトキハ其指定局ニ遞送スヘキモノノミ之ヲ締切ト爲シ其他ノ局ニ遞送スルヘキモノハ添行囊ニ納ムヘシ
 - 二 沿道締切指定局ヨリ第一次夜中保管局ニ至ル途中ニ之在ル局ニ遞送スヘキモノハ各到着局毎ニ締切ト爲スヘシ
 - 三 次ノ夜中保管局及其以下ノ局ニ遞送スヘキモノハ總テ次ノ夜中保管局ニ宛締切ト爲スヘシ
 - 四 夜中保管局宛ノ締切行囊ハ其保管中ニ於テ之ヲ開キ翌日遞送ノ時刻迄ニ前各號ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第三條 郵便物搭載重量、遞送速度及遞送人繼替時間（郵便物ノ受渡アルトキハ其時間トモ）ノ制限ハ左ノ如シ

搭載量	遞送人	重量	容積
十	一人押	重量三十貫匁	容積高サ三尺
	一人押	重量三十五貫匁	容積高サ三尺
	一人押	重量四十貫匁	容積高サ四尺
	一人押	重量七十貫匁	容積高サ四尺
一	平坦路	重量六十貫匁	容積高サ四尺
	平坦路	重量七十貫匁	容積高サ四尺

二 傳送速度一哩ニ付 十五分

但土地ノ狀況ニ依リ規程ノ速度ヲ履行シ能ハサル場所ニハ相當ノ猶豫時間ヲ附與スルコトアルヘシ

二 遞送人員臺車一臺ニ付 二人

三 遞送人繼替時間 十分

第四條 郵便物ヲ搭載シタル臺車ニハ郵便旗ヲ掲揚スヘシ

第五條 郵便物搭載臺車押送ノトキ其初頭ニ在ル押送ノ遞送人ヲシテ喇叭ヲ携帯セシメ線路屈曲ノ場所竝ニ前方ヨリ他ノ臺車來ルヲ遠見シタルトキハ之ヲ呼吹セシムヘシ

第六條 臺車二輛以上使用スルトキハ甲乙臺車間寡クトモ二間ノ距離ヲ取り停車ノ際甲乙衝突セサル様注意セシムヘシ又甲乙五間以上離隔セシメサルヲ要ス

第七條 臺車遞送人二人以上ヲ付スル場合ニハ其遞送便毎ニ遞送取締人一人ヲ定メ他ノ遞送人ノ取締ニ任セシムヘシ

第八條 郵便物搭載用臺車ニハ時々油ヲ注入シ又ハ掃除ヲ爲シ若ビアリング内ノ海綿固結シ油ノ浸染セサルニ至リタルトキハ速ニ之ヲ取替ヘ遞送上滯滯滯ノ虞ナラカシムヘシ

第九條 遞送人途中交替ノトキハ相互遞送人ニ於テ臺車數ト郵便行囊數トヲ點檢セシメ遞送記ノ備考欄内ニ行囊現在數ヲ記入シ相互選取取締人(遞送人一人ノトキハ其遞送人)ヲシテ認印ヲナサシムヘシ

第十條 線路沿道受渡曲ノ郵便物受渡場所ハ當該局ニ持込保管ノ規定アル場所ヲ除クノ外ハ最近輕便鐵道停車場トス若局停車場間ノ距離遠隔ニシテ別ニ受渡場所ノ設定ヲ要スルトキハ其位置ヲ撰定シ豫メ認可ヲ受クヘシ

第十一條 郵便物ヲ搭載スヘキ臺車ハ每便必之ヲ檢査シ破損ノ箇所ナキヲ認メタル上搭載スヘシ

第十二條 郵便物ノ積量制限以内ナルトキハ押送ノ遞送人時々同乗スルモ妨ケナシ此場合ニ於テハ成ヘク臺車ノ前頭ニ同乗セシムヘシ但シ急勾配ノ下阪ニ在テハ縱合積量制限ニ達セサルトキ雖同乗セシムヘカラス

第十三條 郵便物ハ臺車ノ中心ヨリ前後左右トモ重量平均ヲ得ルヲ度トシ一方ニ偏セサル様搭載スヘシ若郵便物ノ積量制限以内ナルニ依リ押送ノ遞送人同乗スルトキハ同乗者ノ體量ヲ見積リ其見積體量ト郵便物ノ重量トヲ合セ中心ノ平均ヲ失セシメサルヲ要ス

第十四條 臺車押送ニ土人ヲ使役スルトキハ一臺毎ニ輕便鐵道遞送人使役證(別記様式)ヲ調製シ當該遞送人ニ交付スヘシ但便宜數臺ニ付使役證一葉ヲ交付スルコトヲ得

第十五條 郵便物遞送ヲ終リ其遞送人歸途ニ就クトキハ郵便臺車用雨覆竝縮繩ハ其空臺車ニ搭載シ必其遞送人ヲシテ之ヲ押戻ラシムヘシ

第十六條 郵便物遞送中他ノ臺車ニ遭遇シ止ヲ得ス郵便車ヲシテ避ケシムヘキ場合ハ勿論空車ノトキト雖臺車ヲ転覆セシムヘカラス

第十七條 郵便及電信局又ハ出張所繼替所等ニ於テ臺車保管中ハ破損紛失セサル様中尉スヘキハ勿論雨覆ニ瀑洒セシムヘカラス

第十八條 輕便鐵道線路中阪路ト平坦路トノ區別ハ別ニ關係局所所ニ達示ス

第十九條 此手續ニ規定セサル事項ハ總テ一般ノ取扱規則ニ依ルヘシ

府報 第千八十號
訓令第四百三十號

郵便及電信局

明治三十二年一月訓令第四號輕便鐵道郵便取扱手續中左ノ通改正ス
明治三十四年十二月二十日 臺灣總督 男爵兒玉源太郎

輕便鐵道郵便取扱手續

第一條 輕便鐵道線路ニ依リ遞送スヘキ郵便物（小包郵便物トモ以下同シ）ハ輕便鐵道臺車ニ搭載シ遞送人ヲシテ之ヲ押送セシムルモノトス

第二條 輕便鐵道線路ニ依リ遞送スヘキ郵便物ハ左ニ記載スル區別ニ從ヒ大行囊及添行囊ニ納ムヘシ

一 次ノ夜中保管局（夜中保管局ナキトキハ線路極端局以下同シ）ニ至ル途中ニ沿道締切指定局（締切指定局ハ別ニ定ム）アルトキハ其指定局ニ遞送スヘキモノノミ之ヲ締切ト爲シ其他ノ局ニ遞送スルヘキモノハ添行囊ニ納ムヘシ

二 沿道締切指定局ヨリ第一次夜中保管局ニ至ル途中ニ之在ル局ニ遞送スヘキモノハ各到着局毎ニ締切ト爲スヘシ

三 次ノ夜中保管局及其以下ノ局ニ遞送スヘキモノハ總テ次ノ夜中保管局ニ宛締切ト爲スヘシ

四 夜中保管局宛ノ締切行囊ハ其保管中ニ於テ之ヲ開キ翌日遞送ノ時刻迄ニ前各號ノ手續ヲ爲スヘシ

第三條 郵便物搭載重量、遞送速度及遞送人繼替時間（郵便物ノ受渡アルトキハ其時間トモ）ノ制限ハ左ノ如シ

一 搭載量一
 阪路一 重量六十貫匁
 容積高サ四尺
 平坦路一 重量七十貫匁
 容積高サ四尺

二 遞送人員臺車一臺ニ付 二人

三 遞送人繼替時間 十分

第四條 郵便物ヲ搭載シタル臺車ニハ必郵便旗ヲ掲揚スヘシ

第五條 郵便物搭載臺車押送ノトキ其初頭ニ在ル押送ノ遞送人ヲシテ喇叭ヲ携帯セシメ線路屈曲ノ場所竝ニ前方ヨリ他ノ臺車來ルヲ遠見シタルトキハ之ヲ呼吹セシムヘシ

第六條 臺車二輛以上使用スルトキハ甲乙臺車間寡クトモ二間ノ距離ヲ取り停車ノ際甲乙衝突セサル様注意セシムヘシ又甲乙五間以
上離隔セシメサルヲ要ス

- 第七條 臺車通送人二人以上ヲ付スル場合ニハ其通送便毎ニ通送取
 締人一人ヲ定メ他ノ通送人ノ取締ニ任セシムヘシ
- 第八條 郵便物搭載用臺車ニハ時々油ヲ注入シ又ハ掃除ヲ爲シ若ビ
 アリング内ノ海綿固結シ油ノ浸染セサルニ至リタルトキハ速ニ之
 ヲ取替ヘ通送上溢滯溢滯ノ虞ナラカシムヘシ
- 第九條 通送人途中交替ノトキハ相互通送人ニ於テ臺車數ト郵便行
 囊數トヲ點檢セシメ通送記ノ備考欄内ニ行囊現在數ヲ記入シ相互
 選取締人(通送人一人ノトキハ其通送人)ヲシテ認印ヲナサシ
 ムヘシ
- 第十條 線路沿道受渡曲ノ郵便物受渡場所ハ當該局ニ持込保管ノ規
 定アル場所ヲ除クノ外ハ最近輕便鐵道停車場トス若局停車場間ノ
 距離遠隔ニシテ別ニ受渡場所ノ設定ヲ要スルトキハ其位置ヲ撰定
 シ豫メ認可ヲ受クヘシ
- 第十一條 郵便物ヲ搭載スヘキ臺車ハ每便必之ヲ檢査シ破損ノ箇所
 ナキヲ認メタル上搭載スヘシ
- 第十二條 郵便物ノ積量制限以内ナルトキハ押送ノ通送人時々同乗
 スルモ妨ケナシ此場合ニ於テハ成ヘク臺車ノ前頭ニ同乗セシムヘ
 シ但シ急勾配ノ下阪ニ在テハ縱合積量制限ニ達セサルトキ雖同乗
 セシムヘカラス
- 第十三條 郵便物ハ臺車ノ中心ヨリ前後左右トモ重量平均ヲ得ルヲ
 度トシ一方ニ偏セサル様搭載スヘシ若郵便物ノ積量制限以内ナル
 ニ依リ押送ノ通送人同乗スルトキハ同乗者ノ體量ヲ見積リ其見積
 體量ト郵便物ノ重量トヲ合セ中心ノ平均ヲ失セシメサルヲ要ス
- 第十四條 臺車押送ニ土人ヲ使役スルトキハ一臺毎ニ輕便鐵道通送
 人使役證(別記様式)ヲ調製シ當該通送人ニ交付スヘシ但便宜數
 臺ニ付使役證一葉ヲ交付スルコトヲ得
- 第十五條 郵便物通送ヲ終リ其通送人歸途ニ就クトキハ郵便臺車用
 雨覆竝締繩ハ其空臺車ニ搭載シ必其通送人ヲシテ之ヲ押戻ラシム
 ヘシ
- 第十六條 郵便物通送中他ノ臺車ニ遭遇シ止ヲ得ス郵便車ヲシテ避
 ケシムヘキ場合ハ勿論空車ノトキト雖臺車ヲ転覆セシムヘカラス
- 第十七條 郵便及電信局又ハ出張所繼替所等ニ於テ臺車保管中ハ破
 損紛失セサル様中尉スヘキハ勿論雨覆ニ瀑洒セシムヘカラス
- 第十七條ノ二第十八條 輕便鐵道線路中阪路ト平坦路トノ區別ハ別
 ニ關係局所所ニ達示ス
- 第十九條 此ノ手續ニ依リ通送スル通送種別ヲ臺車送ト稱ス
- 第二十條 通送郵便物ノ通送実況ヲ證明スル為始点局ニ於テ郵便取
 扱規程ニ依ル郵便通送記ヲ調製スヘシ
- 第十八條第二十一條 此手續ニ規定セサル事項ハ總テ一般ノ取扱規
 則ニ依ルヘシ

府報 第千二百三十九號
訓令第百六十四號

一、二、三等局（電信局ヲ除ク）

輕便鐵道郵便取扱規程左ノ通相定ム

臺灣總督 男爵兒玉源太郎

明治三十五年十月十六日

輕便鐵道郵便取扱規程

第一條 輕便鐵道ニ依リ遞送スル郵便物ノ取扱方ハ此ノ規程ニ依ル
ノ外明治三十三年九月逋信省公達第四百三十二號郵便取扱規程及
々公達第四百四十四號鐵道郵便取扱規程中閉囊便ニ關スル規程ヲ
準用ス

第二條 輕便鐵道ニ依リ遞送スル郵便物ハ特ニ規定シタル場合ノ外
通常郵便物又ハ小包郵便物ト併送スヘシ

第三條 輕便鐵道逋送ニ閉囊便ヲ設ケ沿道郵便局相互ノ間直接締切
行囊ヲ以テ郵便物ヲ授受シ郵便夫ヲシテ護送セシムヘシ
郵便物護送ノ郵便夫ハ郵便物搭載第一列ノ郵便臺車ニ乗務セシム
ヘシ

第四條 輕便鐵道線路ノ逋送速度左ノ如シ

一等速度 一時間 六哩
二等速度 一時間 五哩

第五條 輕便鐵道線路ノ逋送荷量及容積ノ制限左ノ如シ

坂道一
荷量 一人押 二十貫匁
二人押 六十貫匁
容積 一人押 三尺
二人押 四尺

平坦路一
荷量 一人押 二十五貫匁
二人押 七十貫匁
容積 一人押 三尺
二人押 四尺

郵便夫乗車シタル場合ニ於テハ其ノ體量ヲ十五貫匁ト看做シ逋送
荷量ヲ定ヘシ

第六條 一人押ヲ以テ逋送スヘキ線路ハ別ニ定ム

一人押線路ニ於テ逋送荷量ノ制限ヲ超過スルトキハ其ノ超過シタ
ル臺車ニ限リ二人押トス

第七條 閉囊便ニ於ケル逋送人ノ繼立局ハ別ニ指定ス

第八條 閉囊便始點局ニ於テハ郵便物ノ逋送實況ヲ證明スル為別記

第一號書式ニ依リ遞送起ヲ調製シテ郵便夫ニ交付シ郵便物受渡ノ際沿道各局ノ取扱者又ハ遞送人ニ之ヲ引渡サシムヘシ
 相當ノ記入ヲナシ途中局ニ於テハ郵便物ト共ニ郵便夫ニ引渡シ終點局ニ於テハ郵便取扱規程第二百四條願送便ニ使用スル郵便遞送記ノ例ニ依リ所轄一等局ニ差出シ一等局ニ於テハ郵便遞送記ニ準シ處理スヘシ
 第九條 郵便夫所屬局ハ郵便遞送日記張ヲ作り郵便夫ニ交付シ遞送中ノ事故其ノ他遞送上必要ノ事項ヲ記入セシメ所屬局ニ於テ查問スヘシ
 第十條 郵便物遞送上必要ナル郵便臺車（郵便臺車ニハ雨覆締繩郵便旗荷抑柱ヲ包含ス以下做之）及喇叭洋燈（夜中遞送ノ場合ニ限ル）ハ差立時刻前検査ヲ遂ケ故障無キヲ確メタル上當便遞送人ニ引渡スヘシ
 第十一條 喇叭ハ閉囊便ニ在テハ郵便夫其ノ他ハ郵便臺車第一列ノ遞送人ニ携帶セシメ線路屈曲ノ場所又ハ前方ニ他ノ臺車ヲ望見シタルトキハ其ノ他危険ノ虞アルトキハ之ヲ呼吹セシムヘシ
 第十二條 閉囊便ニ在テハ郵便臺車ヲ共通保管品トシテ沿道各局間ニ相互流通使用シ遞送人繼立局ハ郵便物ノ積替ヲ爲サス到着シタル郵便臺車ヲ其ノ儘使用シ遞送人差出局ニ對シテハ自局備附品ヲ以テ相當代品ヲ該局遞送人ヲシテ持戻ラシムヘシ但シ郵便臺車ニ故障アルヲ發見シ遞送上差支アリト認ムルトキハ此限ニアラス
 前項ノ差立局ニ於テハ別記第二號書式ニ依リ郵便臺車ノ送付證ヲ作り遞送人ニ交付シ到着局ニ於テハ其ノ送付證ニ對照シテ郵便臺車ヲ検査シ更ニ返附證ヲ作り其ノ遞送人ニ交付スヘシ送附證及返附證ハ送附ヲ受ケタル局ニ於テ各三箇月間保管スヘシ
 第一項ノ繼立局ニ於テ到着シタル郵便臺車ニ故障アルヲ發見スルモ相當手當ヲ加ヘ其ノ儘使用シタル場合ニ於テハ其ノ故障ニ付當該遞送人ノ手續書ヲ徴シ又ハ顛末書ヲ作り其ノ旨差立局ニ通報スヘシ
 第十三條 郵便臺車ハ保管中雨露ニ曝シ若ハ押送途中回避ノ際故サラニ転覆セシムヘカラズ
 附則
 第十四條 此ノ規定ハ明治三十五年十月二十一日ヨリ施行ス
 明治三十二年一月訓令第四號輕便鐵道郵便取扱手續明治三十四年一月訓令第九號及同年十二月訓令第四百十三號ハ此ノ規程施行ノ日ヨリ廢止ス
 別記
 書式第一號

輕便鐵道閉囊便遞送記			
局所名	出發時刻	到著時刻	受取及差立ノ別
時 月 日	時 分	時 月 日	差 立
時 分	時 分	時 分	受 取
差 立			簡數
			量目
			簡數
			量目
			空行囊
			目
			通送人
			取扱者
			適 要
			印
			印

車臺便郵道鐵便輕					
荷 抑 柱	郵 便 旗	締		雨 覆	臺 車
		繩			
		小	大		
本	旋	本	本	枚	輛

證附送車臺便郵道鐵便輕						
印 附 日 局 立 差	荷 抑 柱	郵 便 旗	締		雨 覆	臺 車
			繩			
			小	大		
考 備						
	本	旋	本	本	枚	輛

一 記入心得
 二 出發及到着時刻ノ欄ニハ各局所ニ於テ記入スルモノトス
 三 差出箇數量目ノ欄ニハ始點局ハ差立タル總テノ行囊數及量目ヲ記シ其他沿道局ハ自局ヨリ差立ツル行囊數及量目ヲ記入スルモノトス
 四 受取箇數量目ノ欄ニハ終點局ハ到着シタル總テノ行囊數及量目ヲ記入シ其他沿道局ハ自局ヘ到着スル行囊數及量目ヲ記載スルモノトス
 五 通送人数ノ欄ニハ臺車押送ノタメ使役シタル通送總人員數ヲ記入スルモノトス
 六 摘要欄ニハ通送上必要ノ事項ヲ記入シ置クモノトス
 七 書式第二號

時 分	月 日	時 分	月 日	受 取	差 立	受 取

證 附 返	
印 附 日 局 立 差	
考 備	

記入心得
 一 繼立局ニ於テ臺車ニ故障アルヲ發見シ郵便物積替ノ上之ヲ返戻スルトキ及受渡ノ結果臺車ニ剩豫ヲ生シ返戻スルトキハ其旨備考欄内ニ記入スルモノトス

府報 第千三百十一號
 訓令第四十二號

明治三十五年一月訓令第二百六十四號輕便鐵道郵便取扱規程中左ノ通改定ス
 明治三十六年三月二十五日
 臺灣總督 男爵兒玉源太郎

第一條 輕便鐵道郵便取扱規程ノ外明治三十三年九月逋信省公達第四百三十二號郵便取扱規程及々公達第四百四十四號鐵道郵便取扱規程中閉囊便ニ關スル規程ヲ準用ス

第二條 輕便鐵道ニ依リ逋送スル郵便物ハ特ニ規定シタル場合ノ外通常郵便物又ハ小包郵便物ト併送スヘシ

第三條 輕便鐵道逋送ニ閉囊便ヲ設ケ沿道郵便局相互ノ間直接締切行囊ヲ以テ郵便物ヲ授受シ郵便夫ヲシテ護送セシムヘシ

郵便物護送ノ郵便夫ハ小郵便物搭載第一列ノ郵便臺車ニ乗務セシムトシ

締切行囊ハ納入郵便物容積ノ大小ニ依リ大行囊又ハ小行囊ヲ用キ其ノ小行囊ヲ用キタルトキハ郵便夫ヲシテ其ノ乗務区域内ハ受渡各局所毎ニ之ヲ各別ノ大行囊ニ納メ其ノ他ハ合同ノ大行囊ニ納メシムベシ

前項郵便夫ノ使用スル大行囊ハ其ノ乗務始點局ニ於テ相當數ヲ交付シ乗務ヲ終リタルトキ其ノ殘餘ヲ當該局ニ引渡サシムヘシ

閉囊便ニ逋送スル空行囊ノ記票ニハ其ノ重量ヲ記入スヘシ
 閉囊便逋送ノ郵便行囊ハ更ニ之ヲ錠付特別大行囊ニ納メ之ヲ締切ト爲シ若ハ締切ト爲サスシテ郵便夫ニ引渡スコトヲ得其ノ締切ノ場合ハ鎖錠ノ上更ニ封緘ヲ施スヘシ締切ト爲ササル特別大行囊ハ郵便夫ニ於テ其ノ開閉ヲ掌リ其ノ逋送人トノ間ニハ特別大行囊一箇トシテ授受セシムヘシ

第四乘 輕便鐵道線路ノ逋送速度左ノ如シ

一等速度 一時間 六哩
 二等速度 一時間 五哩

線路ノ狀況ニ依リ一定ノ區域間特ニ前項ノ速度ヲ變更スルコトアルヘシ
 第五乘 輕便鐵道線路ノ逋送荷量及容積ノ制限左ノ如シ

坂道一 荷量一 一人押 二十貫匁
二人押 六十貫匁
容積一 一人押 高サ 三尺
二人押 四尺

平坦路一 荷量一 一人押 二十五貫匁
二人押 七十貫匁
容積一 一人押 高サ 三尺
二人押 四尺

郵便夫乗車シタル場合ニ於テハ其ノ體量ヲ十五貫匁ト看做シ通送荷量ヲ定ヘシ

第六乗 一人押ヲ以テ通送スヘキ線路ハ別ニ定ム
一人押線路ニ於テ通送荷量ノ制限ヲ超過スルトキハ其ノ超過シタル臺車ニ限リ二人押トス

第七條 閉囊便ニ於ケル通送人ノ繼立局ハ別ニ指定ス
第八條 閉囊便始點局ニ於テハ郵便物ノ通送實況ヲ證明スル為別記第一號書式ニ依リ通送起ヲ調製シテ郵便夫ニ交付シ郵便物受渡ノ際沿道各局ノ取扱者又ハ通送人ニ之ヲ引渡サシムヘシ

相當ノ記入ヲナシ途中局ニ於テハ郵便物ト共ニ郵便夫ニ引渡シ終點局ニ於テハ郵便取扱規程第二百四條願送便ニ使用スル郵便通送記ノ例ニ依リ所轄一等局ニ差出シ一等局ニ於テハ郵便通送記ニ準シ處理スヘシ

第八條ノ二 特ニ指定スル閉囊便沿道郵便局所外ノ受渡所ニ於テ郵便物ノ受渡ヲ爲ス場合ハ通送記ノ授受を爲サス受渡局所及郵便夫トモ行囊量目ヲ送致證及原符ノ餘白ニ記入シ次ノ受渡局ニ於テ送致證及原符ニ依リ其ノ箇數量目ヲ通送記ニ記入スヘシ
前項ノ場合ニ於ケル通送實費時間ハ其ノ前後ノ受渡局所間ノ通送時間ヨリ中間受渡所ニ於ケル規定ノ取扱時間ヲ控除シタルモノヲ以テ之ヲ定ヘシ

第八條ノ三 郵便局所内ニ於テ閉囊便郵便物ノ受渡ヲ爲ス場合ハ送致證ヲ使用セス郵便夫ハ通送記ト共ニ之ヲ引渡シ其ノ相當記入證印ヲ受ケ差立局所ハ郵便差立帳ニ郵便夫ノ受領證印ヲ徴スヘシ
第八條ノ四 閉囊便通送郵便行囊ハ郵便夫ヲシテ通送記提要欄行囊ノ合計數ニ照シテ之ヲ當便通送人ニ引渡サシメ其ノ受領證印ヲ爲サシムヘシ但シ第三條第五項ニヨル特別大行囊アルトキハ通送記上部欄外ニ特別何箇通常何箇ト記シ受領證印ヲ爲サシムヘシ

沿道各局ニ引渡ス行囊ハ郵便夫ヲシテ通送人ヨリ之ヲ受取り其ノ箇數ヲ通送記行囊箇數受取ノ欄ニ記入シテ之ヲ通送人ニ認メシムヘシ但シ第三條第五項ニ依ル特別大行囊納入ノモノハ此ノ限ニアラス
郵便夫乗務終點局ニ到着シタルトキハ通送記ニ照シテ行囊箇數ヲ點檢シ其ノ相違ナキヲ認メ通送人ヨリ之ヲ受取ラシムヘシ

第八條ノ五 閉囊便ノ通送人差立局所ニ於テハ通常道路郵便線路用郵便繼立證ヲ使用スヘシ
第九條 郵便夫所屬局ハ郵便通送日記張ヲ作り郵便夫ニ交付シ通送中ノ事故其ノ他通送上必要ノ事項ヲ記入セシメ所屬局ニ於テ査問スヘシ

第十條 郵便物通送上必要ナル郵便臺車（郵便臺車ニハ雨覆締繩郵便旗荷抑柱ヲ包含ス以下做之）及喇叭洋燈（夜中通送ノ場合ニ限ル）ハ差立時刻前検査ヲ遂ケ故障無キヲ確メタル上當便通送人ニ

引渡スヘシ

閉囊便ニ使用スル喇叭ハ郵便夫所屬局ニ於テ交付ス

第十一條 喇叭ハ閉囊便ニ在テハ郵便夫其ノ他ハ郵便臺車第一列ノ
通送人ニ携帶セシメ線路屈曲ノ場所又ハ前方ニ他ノ臺車ヲ望見シ
タルトキハ其ノ他危険ノ虞アルトキハ之ヲ呼吹セシムヘシ

第十二條 閉囊便ニ在テハ郵便臺車ヲ共通保管品トシテ沿道各局間
ニ相互流通使用シ通送人繼立局ハ郵便物ノ積替ヲ爲サス到着シタ
ル郵便臺車ヲ其ノ儘使用シ通送人差出局ニ對シテハ自局備附品ヲ
以テ相當代品ヲ該局通送人ヲシテ持戻ラシムヘシ但シ郵便臺車ニ
故障アルヲ發見シ通送上差支アリト認ムルトキハ此限ニアラス

前項ノ差立局ニ於テハ別記第二號書式ニ依リ郵便臺車ノ送付證ヲ
作り通送人ニ交付シ到着局ニ於テハ其ノ送付證ニ對照シテ郵便臺
車ヲ檢査シ更ニ返附證ヲ作り其ノ通送人ニ交付スヘシ送附證及返
附證ハ送附ヲ受ケタル局ニ於テ各三箇月間保管スヘシ

第十三條 郵便臺車ハ保管中雨露ニ曝シ若ハ押送途中回避ノ際故サ
ラニ転覆セシムヘカラズ

第十四條 此ノ規定ハ明治三十五年十月二十一日ヨリ施行ス
明治三十二年一月訓令第四號輕便鐵道郵便取扱手續明治三十四年
一月訓令第九號及同年十二月訓令第四百十三號ハ此ノ規程施行ノ
日ヨリ廢止ス

別記
書式第一號

輕便鐵道閉囊便通送記

局所名	出發時刻		到着時刻		受取及差 立ノ別	郵便行囊 量目	郵便 量目	空行囊 量目	通送人 印	取扱者 印	適 要
	時 分	月 日	時 分	月 日							
	時 分	月 日	時 分	月 日	受 取						
	時 分	月 日	時 分	月 日	差 立						
	時 分	月 日	時 分	月 日	受 取						
	時 分	月 日	時 分	月 日	差 立						
	時 分	月 日	時 分	月 日	受 取						
	時 分	月 日	時 分	月 日	差 立						
	時 分	月 日	時 分	月 日	受 取						

記入心得

- 一 出發及到着時刻ノ欄ニハ各局所ニ於テ記入スルモノトス
- 二 差出箇數量目ノ欄ニハ始點局ハ差立タル總テノ行囊數及量目
ヲ記シ其他沿道局ハ自局ヨリ差立ツル行囊數及量目ヲ記入ス
ルモノトス
- 三 受取箇數量目ノ欄ニハ終點局ハ到着シタル總テノ行囊數及量

證附返車臺便郵道鐵便輕						
印附日局立差	荷 抑 柱	郵 便 旗	締		雨 覆	臺 車
			繩			
			小	大		
考 備						
	本	旋	本	本	枚	輛

證附送車臺便郵道鐵便輕						
印附日局立差	荷 抑 柱	郵 便 旗	締		雨 覆	臺 車
			繩			
			小	大		
考 備						
	本	旋	本	本	枚	輛

書式第二號

四 目ヲ記入シ其他沿道局ハ自局ヘ到着スル行囊箇數及量目ヲ記載スルモノトス
 通送人数ノ欄ニハ臺車押送ノタメ使役シタル通送總人員數ヲ記入スルモノトシ其ノ通送人繼立ヲ爲ササル局所ニ於テハ通送人員ニ増減アリタル場合ニ記入スルモノトス
 摘要欄ニハ通送上必要ノ事項ヲ記入シ置クモノトシ尚沿道各局所ニ於テハ自局差立及繼立行囊箇數量目ノ合計ヲ記入スルモノトス
 特ニ指定セル受渡所ニ於テ受渡ヲ爲ス場合ハ郵便夫ニ於テ行囊箇數ノ合計ヲ記入スルモノトス

五

記入心得

一 繼立局ニ於テ臺車ニ故障アルヲ發見シ郵便物積替ノ上之ヲ返戻スルトキ及受渡ノ結果臺車ニ剩豫ヲ生シ返戻スルトキハ其旨備考欄内ニ記入スルモノトス

附則
本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ施行ス

府報 第千三百三十一號
訓令第四十八號

一、二、三等局（電信局ヲ除ク）

明治三十五年一月訓令第二百六十四號輕便鐵道郵便取扱規程中左ノ
通改定ス

明治三十六年四月二十八日

臺灣總督 男爵兒玉源太郎

輕便鐵道郵便取扱規程

第一條 輕便鐵道ニ依リ遞送スル郵便物ノ取扱方ハ此ノ規程ニ依ル
ノ外明治三十三年九月逋信省公達第四百三十二號郵便取扱規程及
々公達第四百四十四號鐵道郵便取扱規程中閉囊便ニ關スル規程ヲ
準用ス

第二條 輕便鐵道ニ依リ遞送スル郵便物ハ特ニ規定シタル場合ノ外
通常郵便物又ハ小包郵便物ト併送スヘシ

第三條 輕便鐵道遞送ニ閉囊便ヲ設ケ沿道郵便局相互ノ間直接締切
行囊ヲ以テ郵便物ヲ授受シ郵便夫ヲシテ護送セシムヘシ

締切行囊ハ納入郵便物容積ノ大小ニ依リ大行囊又ハ小行囊ヲ用キ
其ノ小行囊ヲ用キタルトキハ郵便夫ヲシテ其ノ乗務區域内ハ受渡
各局所毎ニ之ヲ各別ノ大行囊ニ納メ其ノ他ハ合同ノ大行囊ニ納メ
シムベシ

前項郵便夫ノ使用スル大行囊ハ其ノ乗務始點局ニ於テ相當數ヲ交
付シ乗務ヲ終リタルトキ其ノ殘餘ヲ當該局ニ引渡サシムヘシ

閉囊便ニ遞送スル空行囊ノ記票ニハ其ノ重量ヲ記入スヘシ
閉囊便遞送ノ郵便行囊ハ更ニ之ヲ錠付特別大行囊ニ納メ之ヲ締切
ト爲シ若ハ締切ト爲サスシテ郵便夫ニ引渡スコトヲ得其ノ締切ノ
場合ハ鎖錠ノ上更ニ封緘ヲ施スヘシ締切ト爲ササル特別大行囊ハ
郵便夫ニ於テ其ノ開閉ヲ掌リ其ノ遞送人トノ間ニハ特別大行囊一
箇トシテ授受セシムヘシ

第四條 輕便鐵道線路ノ遞送速度左ノ如シ

一等速度 一時間 六哩
二等速度 一時間 五哩

線路ノ狀況ニ依リ一定ノ區域間特ニ前項ノ速度ヲ變更スルコトア
ルヘシ
第五條 輕便鐵道線路ノ遞送荷量及容積ノ制限左ノ如シ

坂道ハ
荷量ハ 一人押 二十貫匁
 二人押 六十貫匁
 一人押 三十貫匁

容積^一 二人押 高サ 四尺

荷量^一 一人押 二十五貫匁

平坦路^一

容積^一 一人押 七十貫匁

郵便夫乗車シタル場合ニ於テハ其ノ體量ヲ十五貫匁ト看做シ遞送荷量ヲ定ヘシ

第六條 一人押ヲ以テ遞送スヘキ線路ハ別ニ定ム

一人押線路ニ於テ遞送荷量ノ制限ヲ超過スルトキハ其ノ超過シタル臺車ニ限リ二人押トス

第七條 閉囊便ニ於ケル遞送人ノ繼立局ハ別ニ指定ス

第八條 閉囊便始點局ニ於テハ郵便物ノ遞送實況ヲ證明スル為別記第一號書式ニ依リ遞送起ヲ調製シテ郵便夫ニ交付シ郵便物受渡ノ際沿道各局ノ取扱者又ハ遞送人ニ之ヲ引渡サシムヘシ

相當ノ記入ヲナシ途中局ニ於テハ郵便物ト共ニ郵便夫ニ引渡シ終點局ニ於テハ郵便取扱規程第二百四條願送便ニ使用スル郵便遞送記ノ例ニ依リ所轄一等局ニ差出シ一等局ニ於テハ郵便遞送記ニ準シ處理スヘシ

第八條ノ二 特ニ指定スル閉囊便沿道郵便局所外ノ受渡所ニ於テ郵便物ノ受渡ヲ爲ス場合ハ遞送記ノ授受を爲サス受渡局所及郵便夫トモ行囊量目ヲ送致證及原符ノ餘白ニ記入シ次ノ受渡局ニ於テ送致證及原符ニ依リ其ノ箇數量目ヲ遞送記ニ記入スヘシ

前項ノ場合ニ於ケル遞送實費時間ハ其ノ前後ノ受渡局所間ノ遞送時間ヨリ中間受渡所ニ於ケル規定ノ取扱時間ヲ控除シタルモノヲ以テ之ヲ定ヘシ

第八條ノ三 郵便局所内ニ於テ閉囊便郵便物ノ受渡ヲ爲ス場合ハ送致證ヲ使用セス郵便夫ハ遞送記ト共ニ之ヲ引渡シ其ノ相當記入證印ヲ受ケ差立局所ハ郵便差立帳ニ郵便夫ノ受領證印ヲ徴スヘシ

第八條ノ四 閉囊便遞送郵便行囊ハ郵便夫ヲシテ遞送記提要欄行囊ノ合計數ニ照シテ之ヲ當便遞送人ニ引渡サシメ其ノ受領證印ヲ爲サシムヘシ但シ第三條第五項ニヨル特別大行囊アルトキハ遞送記上部欄外ニ特別何箇通常何箇ト記シ受領證印ヲ爲サシムヘシ

沿道各局ニ引渡ス行囊ハ郵便夫ヲシテ遞送人ヨリ之ヲ受取り其ノ箇數ヲ遞送記行囊箇數受取ノ欄ニ記入シテ之ヲ遞送人ニ認メシムヘシ但シ第三條第五項ニ依ル特別大行囊納入ノモノハ此ノ限ニアラス

郵便夫乗務終點局ニ到着シタルトキハ遞送記ニ照シテ行囊箇數ヲ點檢シ其ノ相違ナキヲ認メ遞送人ヨリ之ヲ受取ラシムヘシ

第八條ノ五 閉囊便ノ遞送人差立局所ニ於テハ通常道路郵便線路用郵便繼立證ヲ使用スヘシ

第九條 郵便夫所屬局ハ郵便遞送日記張ヲ作り郵便夫ニ交付シ遞送中ノ事故其ノ他遞送上必要ノ事項ヲ記入セシメ所屬局ニ於テ査問スヘシ

第十條 郵便物遞送上必要ナル郵便臺車（郵便臺車ニハ雨覆締繩郵便旗荷抑柱ヲ包含ス以下做之）及喇叭洋燈（夜中遞送ノ場合ニ限ル）ハ差立時刻前検査ヲ遂ケ故障無キヲ確メタル上當便遞送人ニ引渡スヘシ

閉囊便ニ使用スル喇叭ハ郵便夫所屬局ニ於テ交付ス

第十一條 喇叭ハ閉囊便ニ在テハ郵便夫其ノ他ハ郵便臺車第一列ノ

通送人ニ携帶セシメ線路屈曲ノ場所又ハ前方ニ他ノ臺車ヲ望見シタルトキハ其ノ他危險ノ虞アルトキハ之ヲ呼吹セシムヘシ
 第十二條 閉囊便ニ在テハ郵便臺車及特別大行囊ヲ共通保管品トシテ沿道各局間ニ相互流通使用シ通送人繼立局ハ郵便物ノ積替ヲ爲サス到着シタ
 ル郵便臺車ヲ其ノ儘使用シ通送人差出局ニ對シテハ自局備附品ヲ以テ相當代品ヲ該局通送人ヲシテ持戻ラシムヘシ但シ郵便臺車及特別大行囊ニ故障アルヲ發見シ通送上差支アリト認ムルトキハ此限ニアラス
 前項ノ差立局ニ於テハ別記第二號書式ニ依リ郵便臺車及特別大行囊ノ送付證ヲ作り通送人ニ交付シ到着局ニ於テハ其ノ送付證ニ對照シテ郵便臺車及特別大行囊ヲ檢査シ更ニ返附證ヲ作り其ノ通送人ニ交付スヘシ送附證及返附證ハ送附ヲ受ケタル局ニ於テ各三箇月間保管スヘシ
 第一項ノ繼立局ニ於テ到着シタル郵便臺車及特別大行囊ニ故障アルヲ發見スルモ相當手當ヲ加ヘ其ノ儘使用シタル場合ニ於テハ其ノ故障ニ付當該通送人ノ手續書ヲ徴シ又ハ顛末書ヲ作り其ノ旨差立局ニ通報スヘシ
 第十三條 郵便臺車ハ保管中雨露ニ曝シ若ハ押送途中回避ノ際故サラニ転覆セシムヘカラズ
 附則
 第十四條 此ノ規定ハ明治三十五年十月二十一日ヨリ施行ス
 明治三十二年一月訓令第四號輕便鐵道郵便取扱手續明治三十四年一月訓令第九號及同年十二月訓令第四百十三號ハ此ノ規程施行ノ日ヨリ廢止ス
 別記
 書式第一號

輕便鐵道閉囊便通送記

局所名	出發時刻		到着時刻		受取及差立ノ別	郵便行囊 量目	郵便 量目	空行囊 量目	通送人 印	取扱者 印	適要
	時分	月日	時分	月日							
	時分	月日	時分	月日	受取						
	時分	月日	時分	月日	差立						
	時分	月日	時分	月日	受取						
	時分	月日	時分	月日	差立						
	時分	月日	時分	月日	受取						
	時分	月日	時分	月日	差立						
	時分	月日	時分	月日	受取						
	時分	月日	時分	月日	差立						

記入心得

- 一 出發及到着時刻ノ欄ニハ各局所ニ於テ記入スルモノトス
- 二 差出箇數量目ノ欄ニハ始點局ハ差立タル總テノ行囊數及量目ヲ記シ其他沿道局ハ自局ヨリ差立ツル行囊數及量目ヲ記入スルモノトス
- 三 受取箇數量目ノ欄ニハ終點局ハ到着シタル總テノ行囊數及量

行大別特及車臺便郵道鐵便輕							
大 特		荷 抑 柱	郵 便 旗	締 繩		雨 覆	臺 車
行 囊	別			小	大		
筒	筒	本	旋	本	本	枚	輛

證附送囊行大別特及車臺便郵道鐵便輕										
印附日局立差		大 特	荷 抑 柱	郵 便 旗	締 繩		雨 覆	臺 車		
考	備				行 囊	別			小	大
		筒	筒	本	旋	本	本	枚	輛	

書式第二號

四
目ヲ記入シ其他沿道局ハ自局ヘ到着スル行囊筒數及量目ヲ記
載スルモノトス
通送人数ノ欄ニハ臺車押送ノタメ使役シタル通送總人員數ヲ
記入シ其ノ通送人員繼立ヲ爲ササル局所ニ於テハ通送人員ニ増
減アリタル場合ニ記入スルモノトス
摘要欄ニハ通送上必要ノ事項ヲ記入シ尚沿道各局所ニ於テハ
自局差立及繼立行囊筒數量目ノ合計ヲ記入スルモノトス
特ニ指定セル受渡所ニ於テ受渡ヲ爲ス場合ハ郵便夫ニ於テ行
囊筒數ノ合計ヲ記入スルモノトス

証 附 返 囊	
印 附 日 局 立 差	
考 備	

一 記入心得
 繼立局ニ於テ臺車**及特別大行囊**ニ故障アルヲ發見シ郵便物積替ノ上之ヲ返戻スルトキ及受渡ノ結果臺車ニ剩豫ヲ生シ返戻スルトキハ其旨備考欄内ニ記入スルモノトス

府報 第千四百六十九號
 訓令第三十三號

一、二、三等局(電信局ヲ除ク)

明治三十五年一月訓令第二百六十四號輕便鐵道郵便取扱規程第八條
 第二項中「郵便遞送記ノ例ニ依リ」ノ下「所轄一等局ニ差出シ一等局ニ於テハ郵便遞送記ニ準シ」ヲ削ル
 明治三十七年二月一日 臺灣總督 男爵兒玉源太郎

第一條 輕便鐵道郵便取扱規程

ノ外明治三十三年九月逋信省公達第四百三十二號郵便取扱規程及々公達第四百四十四號鐵道郵便取扱規程中閉囊便ニ關スル規程ヲ準用ス

第二條 輕便鐵道ニ依リ遞送スル郵便物ハ特ニ規定シタル場合ノ外

通常郵便物又ハ小包郵便物ト併送スヘシ

第三條 輕便鐵道遞送ニ閉囊便ヲ設ケ沿道郵便局相互ノ間直接締切

行囊ヲ以テ郵便物ヲ授受シ郵便夫ヲシテ護送セシムヘシ
 締切行囊ハ納入郵便物容積ノ大小ニ依リ大行囊又ハ小行囊ヲ用キ其ノ小行囊ヲ用キタルトキハ郵便夫ヲシテ其ノ乗務區域内ハ受渡各局所毎ニ之ヲ各別ノ大行囊ニ納メ其ノ他ハ合同ノ大行囊ニ納メシムベシ

前項郵便夫ノ使用スル大行囊ハ其ノ乗務始點局ニ於テ相當數ヲ交

付シ乗務ヲ終リタルトキ其ノ殘餘ヲ當該局ニ引渡サシムヘシ

閉囊便ニ遞送スル空行囊ノ記票ニハ其ノ重量ヲ記入スヘシ

閉囊便遞送ノ郵便行囊ハ更ニ之ヲ錠付特別大行囊ニ納メ之ヲ締切

ト爲シ若ハ締切ト爲サスシテ郵便夫ニ引渡スコトヲ得其ノ締切ノ

場合ハ鎖錠ノ上更ニ封緘ヲ施スヘシ締切ト爲ササル特別大行囊ハ

郵便夫ニ於テ其ノ開閉ヲ掌リ其ノ遞送人トノ間ニハ特別大行囊一

箇トシテ授受セシムヘシ

第四條 輕便鐵道線路ノ遞送速度左ノ如シ

一等速度 一時間 六哩

二等速度 一時間 五哩

線路ノ狀況ニ依リ一定ノ區域間特ニ前項ノ速度ヲ變更スルコトアルヘシ

第五條 輕便鐵道線路ノ遞送荷量及容積ノ制限左ノ如シ

荷量 一人押 二十貫匁
 二人押 六十貫匁

坂道

容積 一人押 高サ 三尺
二人押 四尺

平坦路

荷量 一人押 二十五貫匁
二人押 七十貫匁
容積 一人押 高サ 三尺
二人押 四尺

郵便夫乗車シタル場合ニ於テハ其ノ體量ヲ十五貫匁ト看做シ通送荷量ヲ定ヘシ

第六條 一人押ヲ以テ通送スヘキ線路ハ別ニ定ム

一人押線路ニ於テ通送荷量ノ制限ヲ超過スルトキハ其ノ超過シタル臺車ニ限リ二人押トス

第七條 閉囊便ニ於ケル通送人ノ繼立局ハ別ニ指定ス

第八條 閉囊便始點局ニ於テハ郵便物ノ通送實況ヲ證明スル為別記第一號書式ニ依リ通送起ヲ調製シテ郵便夫ニ交付シ郵便物受渡ノ際沿道各局ノ取扱者又ハ通送人ニ之ヲ引渡サシムヘシ

相當ノ記入ヲナシ途中局ニ於テハ郵便物ト共ニ郵便夫ニ引渡シ終點局ニ於テハ郵便取扱規程第二百四條願送便ニ使用スル郵便通送記ノ例ニ依リ所轄十等局ニ差出シ十等局ニ於テハ郵便通送記ニ準シテ處理スヘシ

第八條ノ二 特ニ指定スル閉囊便沿道郵便局所外ノ受渡所ニ於テ郵便物ノ受渡ヲ爲ス場合ハ通送記ノ授受ヲ爲サス受渡局所及郵便夫トモ行囊量目ヲ送致證及原符ノ餘白ニ記入シ次ノ受渡局ニ於テ送致證及原符ニ依リ其ノ箇數量目ヲ通送記ニ記入スヘシ

前項ノ場合ニ於ケル通送實費時間ハ其ノ前後ノ受渡局所間ノ通送時間ヨリ中間受渡所ニ於ケル規定ノ取扱時間ヲ控除シタルモノヲ以テ之ヲ定ヘシ

第八條ノ三 郵便局所内ニ於テ閉囊便郵便物ノ受渡ヲ爲ス場合ハ送致證ヲ使用セス郵便夫ハ通送記ト共ニ之ヲ引渡シ其ノ相當記入證印ヲ受ケ差立局所ハ郵便差立帳ニ郵便夫ノ受領證印ヲ徴スヘシ

第八條ノ四 閉囊便通送郵便行囊ハ郵便夫ヲシテ通送記提要欄行囊ノ合計數ニ照シテ之ヲ當便通送人ニ引渡サシメ其ノ受領證印ヲ爲サシムヘシ但シ第三條第五項ニヨル特別大行囊アルトキハ通送記上部欄外ニ特別何箇通常何箇ト記シ受領證印ヲ爲サシムヘシ

沿道各局ニ引渡ス行囊ハ郵便夫ヲシテ通送人ヨリ之ヲ受取り其ノ箇數ヲ通送記行囊箇數受取ノ欄ニ記入シテ之ヲ通送人ニ認メシムヘシ但シ第三條第五項ニ依ル特別大行囊納入ノモノハ此ノ限ニアラス

郵便夫乗務終點局ニ到着シタルトキハ通送記ニ照シテ行囊箇數ヲ點檢シ其ノ相違ナキヲ認メ通送人ヨリ之ヲ受取ラシムヘシ

第八條ノ五 閉囊便ノ通送人差立局所ニ於テハ通常道路郵便線路用郵便繼立證ヲ使用スヘシ

第九條 郵便夫所屬局ハ郵便通送日記張ヲ作り郵便夫ニ交付シ通送中ノ事故其ノ他通送上必要ノ事項ヲ記入セシメ所屬局ニ於テ査問スヘシ

第十條 郵便物通送上必要ナル郵便臺車（郵便臺車ニハ雨覆締繩郵便旗荷抑柱ヲ包含ス以下做之）及喇叭洋燈（夜中通送ノ場合ニ限ル）ハ差立時刻前檢査ヲ遂ケ故障無キヲ確メタル上當便通送人ニ引渡スヘシ

閉囊便ニ使用スル喇叭ハ郵便夫所屬局ニ於テ交付ス

第十一條 喇叭ハ閉囊便ニ在テハ郵便夫其ノ他ハ郵便臺車第一列ノ
 通送人ニ携帶セシメ線路屈曲ノ場所又ハ前方ニ他ノ臺車ヲ望見シ
 タルトキハ其ノ他危険ノ虞アルトキハ之ヲ呼吹セシムヘシ
 第十二條 閉囊便ニ在テハ郵便臺車及特別大行囊ヲ共通保管品トシ
 テ沿道各局間ニ相互流通使用シ通送人繼立局ハ郵便物ノ積替ヲ爲
 サス到着シタ
 ル郵便臺車ヲ其ノ儘使用シ通送人差出局ニ對シテハ自局備附品ヲ
 以テ相當代品ヲ該局通送人ヲシテ持戻ラシムヘシ但シ郵便臺車及
 特別大行囊ニ故障アルヲ發見シ通送上差支アリト認ムルトキハ此
 限ニアラス
 前項ノ差立局ニ於テハ別記第二號書式ニ依リ郵便臺車及特別大行
 囊ノ送付證ヲ作り通送人ニ交付シ到着局ニ於テハ其ノ送付證ニ對
 照シテ郵便臺車及特別大行囊ヲ檢査シ更ニ返附證ヲ作り其ノ通送
 人ニ交付スヘシ送附證及返附證ハ送附ヲ受ケタル局ニ於テ各三箇
 月間保管スヘシ
 第一項ノ繼立局ニ於テ到着シタル郵便臺車及特別大行囊ニ故障ア
 ルヲ發見スルモ相當手當ヲ加ヘ其ノ儘使用シタル場合ニ於テハ其
 ノ故障ニ付當該通送人ノ手續書ヲ徴シ又ハ顛末書ヲ作り其ノ旨差
 立局ニ通報スヘシ
 第十三條 郵便臺車ハ保管中雨露ニ曝シ若ハ押送途中回避ノ際故サ
 ラニ転覆セシムヘカラズ
 附則
 第十四條 此ノ規定ハ明治三十五年十月二十一日ヨリ施行ス
 明治三十二年一月訓令第四號輕便鐵道郵便取扱手續明治三十四年
 一月訓令第九號及同年十二月訓令第四百十三號ハ此ノ規程施行ノ
 日ヨリ廢止ス
 別記
 書式第一號

輕便鐵道閉囊便通送記

局所名		出發時刻		到著時刻		受取及差立ノ別		郵便行囊	郵便	空行囊	通送人	取扱者	適要
時分	月日	時分	月日	時分	月日	受取	差立	箇數	目	箇數	目	印	印

記入心得
 一 出發及到著時刻ノ欄ニハ各局所ニ於テ記入スルモノトス
 二 差出箇數目ノ欄ニハ始點局ハ差立タル總テノ行囊數及量目ヲ記シ其他沿道局ハ自局ヨリ差立ツル行囊數及量目ヲ記スルモノトス

大別特及車臺便郵道鐵便輕						
特 別	荷 抑 柱	郵 便 旗	締 繩		雨 覆	臺 車
			小	大		
筒	本	旋	本	本	枚	輛

證附送囊行大別特及車臺便郵道鐵便輕									
印 附 日 局 立 差	大 行 囊	特 別	荷 抑 柱	郵 便 旗	締 繩		雨 覆	臺 車	考 備
					小	大			
	筒	筒	本	旋	本	本	枚	輛	

書式第二號

- 三 受取箇數量目ノ欄ニハ終點局ハ到著シタル總テノ行囊數及量目ヲ記入シ其他沿道局ハ自局ヘ到著スル行囊箇數及量目ヲ記載スルモノトス
- 四 通送人数ノ欄ニハ臺車押送ノタメ使役シタル通送人員數ヲ記入シ其ノ通送人繼立ヲ爲ササル局所ニ於テハ通送人員ニ増減アリタル場合ニ記入スルモノトス
- 五 摘要欄ニハ通送上必要ノ事項ヲ記入シ尚沿道各局所ニ於テハ自局差立及繼立行囊箇數量目ノ合計ヲ記入スルモノトス
- 特ニ指定セル受渡所ニ於テ受渡ヲ爲ス場合ハ郵便夫ニ於テ行囊箇數ノ合計ヲ記入スルモノトス

行囊返附證	
差立局日附印	大行囊小
考 備	
筒	

一 記入心得
 繼立局ニ於テ臺車及特別大行囊ニ故障アルヲ發見シ郵便物積替ノ上之ヲ返戻スルトキ及受渡ノ結果臺車ニ剩豫ヲ生シ返戻スルトキハ其旨備考欄内ニ記入スルモノトス

府報 第千八百十五號
訓令第百九十號

輕便鐵道郵便取扱規程左ノ通相定ム
明治三十八年八月二十五日

一、二、三等局(電信局ヲ除ク)
臺灣總督 男爵兒玉源太郎

輕便鐵道郵便取扱規程

第一條 輕便鐵道ニ依リ遞送スル郵便物ノ取扱方ハ此ノ規程ニ依ル
ノ外明治三十三年九月遞信省公達第四百三十二號郵便取扱規程及
々々公達第四百四十四號鐵道郵便取扱規程中閉囊便ニ關スル規程ヲ
準用ス

第二條 輕便鐵道線路ノ遞送速度左ノ如シ但シ線路ノ狀況ニ依リ特
ニ變更スルコトアルヘシ

一 等速度 一時間 六哩
二 等速度 一時間 五哩

第三條 輕便鐵道線路ノ遞送荷量及載積ノ制限左ノ如シ

坂道ハ
荷量 一人押 二十貫匁迄
二人押 六十貫匁迄
一人押 高サ三尺迄
二人押 高サ四尺迄

平坦路ハ
荷量 一人押 二十五貫匁迄
二人押 七十貫匁迄
一人押 高サ三尺迄
二人押 高サ四尺迄

前項坂路及一人押二人押ヲ以テ遞送スヘキ線路ハ別ニ之ヲ指定ス
第四條 一人押線路ト雖前條二人押ニ對スル制限マテハ郵便物ヲ搭

載スヘシ
前項一人押遞送荷量載積ヲ超過シタル臺車ハ二人押トス

附則
明治三十五年十月訓令第百六十四號ハ之ヲ廢止ス

府報 第二千六百八十二號
訓令第百二十八號

明治三十八年訓令第百九十號輕便鐵道郵便取扱規程
大正十一年六月十五日
臺灣總督 男爵田 健治郎 郵便局

第一條 輕便鐵道郵便取扱規程
ノ外明治三十三年九月逋信省公達第四百三十二號郵便取扱規程及
々々公達第四百四十四號鐵道郵便取扱規程中閉囊便ニ關スル規程ヲ
準用ス

第二條 輕便鐵道線路ノ逋送速度左ノ如シ但シ線路ノ狀況ニ依リ特
ニ變更スルコトアルヘシ
一 等速度 一時間 六哩
二 等速度 一時間 五哩

第三條 輕便鐵道線路ノ逋送荷量及載積ノ制限左ノ如シ

坂道	荷量	一人押	二十五貫匁迄
坂道	載量	一人押	七十貫匁迄
平坦路	荷量	二人押	二十五貫匁迄
平坦路	載量	二人押	七十貫匁迄
坂道	荷量	一人押	二十五貫匁迄
坂道	載量	一人押	七十貫匁迄
平坦路	荷量	二人押	二十五貫匁迄
平坦路	載量	二人押	七十貫匁迄

前項坂路及一人押二人押ヲ以テ逋送スヘキ線路又ハ土地ノ狀況ニ
依リ此ノ制限ニ依リ難キモノハ別ニ之ヲ指定ス
第四條 一人押線路ト雖前條二人押ニ對スル制限マテハ郵便物ヲ搭
載スヘシ
前項一人押逋送荷量載積ヲ超過シタル臺車ハ二人押トス

附則
本令ハ大正十一年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

府報 號外 (昭和六年八月一日)
訓令第四十六號

交 通 局

明治三十八年訓令第九十號輕便鐵道郵便取扱規程ハ昭和六年八月
一日ヨリ之ヲ廢止ス
昭和六年八月一日

臺灣總督 太田 政弘